

**オムロン株式会社 2018年度 2Q決算
投資家様向け説明会 質疑応答（サマリー）
（2018年10月30日、東京）**

<全社業績、経営・戦略>

Q：事業環境の変化を受けて、経費のブレーキはいつ頃からかけ始めたのか？

A：7月に入ってから事業環境が変化し始めた。そのため、7月から8月にかけて経費のコントロールをし始めた。
投資の優先順位をつけた結果、販管費と研究開発費合わせて31億円を来期以降にまわすことにした。

Q：上期の在庫引当金増加によるマイナス影響を定量的に説明してほしい。売上総利益率への具体的な影響は？

A：上期の売上総利益率増減スライド（P5）に記載している、特殊要因△0.6Pのうち、およそ半分くらい。

Q：在庫が増えている理由は？ 需要減により、制御機器事業で意図しない在庫が増えているのではないか？

A：電子部品事業の生産移管による影響、社会システム事業やヘルスケア事業の季節性要因による。
制御機器事業も一部商品の在庫増はあるが、心配するほどのレベルではない。

Q：本社費用が前年度から増えている要因は？

A：本社費用を前年から増やしている主な理由はコア技術強化とITインフラ投資。

Q：変化対応力について。従来からよく言及しているが、これまでと違う取り組みがあれば教えてほしい。

A：例えば、制御機器事業では顧客の理解が進展している。お客様とダイレクトにつながることで、これまで以上に多くの情報を得ることができるようになり、変化対応力が強化されている。

<制御機器事業 関連>

Q：下期の見通しが他社に比べてアグレッシブに見えるが、どこで伸ばすのか？

A：デジタルは引き続き低調を見込むが、自動車、食品・日用品、社会インフラで堅調を見込む。

Q：自動車のEV関連投資は生産キャパシティ過剰という見方もあるが、どう考えているのか？

A：今後も動向は注視が必要。ただアプリケーションの採用自体は増えており、お客様の裾野は着実に広がっている。

Q：i-BELTはGP率向上にどのように効いてくる？

A：今はまだ投資フェーズなので、2020年度以降に期待してほしい。

まだ売上は数億円規模なので、まずは今後売上を100億円、さらに500億円と拡大していきたい。